

「いま権力争いしている時じゃない。現場を見よ」の声も 日本共産党上越市議団が震災被災地視察・支援報告会開催

東日本大震災と長野県北部地震の被災地視察と被災者支援活動についての報告会を1日、福祉交流プラザで行いました。30人近い市民のみなさんから参加していただきました。

上野議員による岩手県での視察と被災者支援活動報告は驚きと迫力に満ちたものでした。同議員は4月の半ばと5月の半ばの2度、岩手県へ行ってきました。報告はスライドを使って行われましたが、4月の写真が生々しい被害状況を伝えていました。津波の力で集合住宅の上に住宅が乗った写真や鉄骨造の建物の上に遊覧船が乗った写真には会場から驚きの声があがりました。ある参加者は、「津波というのは海の底から海水を動かし、莫大なエネルギーを出すことがよくわかった。いままで考えていたイメージと違う」とのべていました。

長野県北部地震についての私の報告についても、参加されたみなさんは、県道菅蒲高原線や



林道牛ヶ鼻浦田線の亀裂などの写真に、「上越市の被害もひどい」とびつくりされたようです。また、大島区で住家2軒の全壊がありながら、被災者生活支援法が適用されないと話したところ、おかしやという顔をさ

れていました。

2つの報告のあとの懇談会。最初に発言された男性は、「上越市の地震被害についての報道が（ほとんど）ない。どうしてこういうことになるのか」「中央の政治家たちは権力争いしているときじゃない。そんなことをするより実際に現場を見よといたい」と怒りいっぱいでした。その後は、「津波の高さだけを想定して対策をとるのではダメ。固有振動による津波の増幅もある」、「モニタリングポストのデータはリアルタイムでインターネットで流れるようではないと信用できない」、「日本海中部地震は、はっきりとしたデータが残っている。これを研究すべきだ」、「直江津火力は、絶対いまから津波対策をとるべきだ」などの発言が相次ぎました。この日の発言は6月議会につなげていきたいと思います。

吉川区内3会場で行行政懇談会

吉川区総合事務所主催の地区別懇談会が5月29日、区内の3会場で行われ、参加してきました。懇談会では、総合事務所幹部が新年度予算の内、吉川区に係わる主なものについて説明したのち、参加者と懇談しました。

懇談会では様々な質問や意見が出ます。この日も、「狭い市道を自力で除雪しているが、限界が見えてきた。消防、救急のことを考えると除雪は必ずやらしてもらわなければならない。今後、どうしたらいいか」「火災報知器については設置期限が迫っている。設置されている家にはシールを貼るといいうが、どこがその作業をやっているのか」「防災緊急放送は外のスピー

シリーズ 上越市内の橋

第67回 菅蒲橋



大島区内には、漢字で「菅蒲橋」と書く橋がふたつあります。ひとつは「しようぶばし」、いまひとつは「あやめばし」と読みます。写真の橋は「あやめばし」。保倉川の最上流にかかった橋で、林道菱ヶ岳3号線にあります。地図上で見ると、上越市の橋の中では最も東側に位置した橋です。

「あやめばし」の近くには菅蒲高原があります。ここは、ベルハウスの観光施設や牛の放牧場跡があります。橋の長さは約28メートル。竣工は1981年（昭和56年）12月です。

カーで流れるものと家の中のものが少しずれるので、スピーカーの近くの家から聞き取りにくいと苦情が出ている。なんとかならないか」「ごみヘルパー制度が変わった。集落対象のものはいらなくなつたということか」など私が記録したもので、11件に上りました。こういう質問や意見に丁寧に答えていくというのは行政と市民の信頼関係を築くことでも大切なことです。



春よ来い 第一五六回 最後の同級会

母が今年も小学校の同級会に出てきました。母の母校は旧旭村（現在は大島区旭地区）の旭小学校です。母に、「同級会、どうだったね」と聞いたら、「ああ、良かったよ。最後の同級会だったし……」と答えるのでびっくりしてしまいました。

同級会は毎年開催されてきました。数年前、「年を取って、出歩くのが難儀になった。子どもや孫の世話にならなければならないようになったらやめよう」という声が出て、米寿になったら最後にしようかと決めていたということでした。

今年も数え年で八八歳、その最後の同級会がやってきました。会場はいつもと同じ大山温泉あさひ荘。母の同級生は五十数人いましたが、すでに戦争や病気などで昨年までに三〇人、今年になって一人、合計三一人の方が亡くなっています。今回の同級会に参加したのは、儀明のシサさん、大島の留一さん、稲田のカズヲさん、熱海のミヨさん、群馬の幸四郎さん、そして母の六人でした。

同級生のみなさんは午前十一時に大山温泉に集合し、挨拶を交わしたあと、腹ごしらえをしました。みんなでラーメンを注文。豚肉、メンマ、カマボコ、ネギの入った普通のラーメンでしたが、量がいっぱい食べきれなかったといいます。

昼食が終わって、六人は大山温泉のワゴン車に乗せてもらって田麦の竹林寺へ行きました。目的は、昨年亡くなったばかりの三ツ橋新田のチエ先生と同級生三一人の弔いのお経をあげてもらうためです。じつは、これには裏話がありました。

チエ先生は、旭小の先生だった時、竹平のお医者さんの家に下宿をされていた方です。先生はこの同級会をいつも楽しみにされていました。亡くなる前に遺言を残されていて、「私が死んでも旭小の同級会があったときには、教え子のみなさんに渡してくれ」と一定額を息子さんを通じて幹事の留一さんに託されていたのです。そのお金をどう使うか、みんなでも相談しました。その結果、すでに亡くなった先生と同級生のために使おうということになったのでした。

夕飯は豪華でした。大山温泉名物の釜飯、天ぷら、刺身など食べきれないほど次々とご馳走が部屋に運ばれてきました。母は、「ごつつおがいっぱい、すぐに腹くちになっちゃった」そうです。男衆も「はい、いらんてがせい、持ってきなんな」と従業員に言うほどでした。そう言われても、作ってある料理をそのままにしておくわけにはいきませんものね。従業員は、戸を開けては新しいご馳走を部屋に運び入れました。

夕飯を食べてからは寝るまでたっぷり話をしました。それこそ、時の経つのを忘れて……。子どもの頃のこと、自分の連れ合いのことなど、話は尽きません。カズヲさんはお連れ合いが戦争から帰ってきた時、「体が黄色くなっている、餓死寸前だった」と話しました。それを契機に女衆は、連れ合いが戦争に取られている間、姑などにおだてられたり、叱られたりしながら「本当によく稼いだ」と思い出話に花を咲かせました。ミヨさんは、毎日食べているお米のことを取り上げ、「竹平の久保保から買っている米が一番うまい」と宣伝。母と机を並べたことのある幸四郎さんは、参加者にお土産として持ち帰ってもらおうとシコシコうどんを配りました。

楽しく過ごした一泊二日の同級会はあっという間に終わりました。朝食後、留一さんが、「これで会を解散します。健康に十分注意して」と挨拶。最後の同級会もこれで本当に終わりです。迎えの車が来た時、「もう二度と会えないかもしれない」と思うのでしよう、女衆は手を振ってみんなにサヨナラしながら涙を流しました。

各区地域協議会で地域活動支援事業審査

いま、市内28の区地域協議会で今年度の地域活動支援事業の審査がはじまっています。

このうち、30日に行われた吉川区地域協議会の審査の様を傍聴してきました。



額は556万円となり、今年度予算額との差額分については再募集をかけることになりました。

6月議会が8日からはじまります。会期は24日まで。災害対策、地域事業費制度が議論の焦点。

6月定例議会日程（会議の開始時間はいずれも午前10時から）

月	日	会議名	会議室名	備考
6月	8日(水)	本会議	議場	提案説明、総括質疑
6月	9日(木)	文教経済委員会	第1委員会室	上野議員担当
6月	10日(金)	厚生委員会	第1委員会室	平良木議員担当
6月	13日(月)	建設企業委員会	第1委員会室	樋口議員担当
6月	14日(火)	総務委員会	第1委員会室	橋爪法一担当
6月	16日(木)	本会議	議場	一般質問
6月	17日(金)	本会議	議場	一般質問
6月	20日(月)	本会議	議場	一般質問
6月	21日(火)	本会議	議場	一般質問
6月	22日(水)	本会議	議場	一般質問
6月	24日(金)	本会議	議場	討論、採決など

今年度、提案のあった事業は、いずれも区内の団体からのもので、「原之町いきいきふれあい交流事業」「越後田舎体験事業案内看板設置事業」「尾神岳山道整備事業」「カタクリの湯整備事業」など8件。申請額は総額で613万円でした。



【アズマシロカネソウ】林道菱ヶ岳3号線で見かけました。

事前に申請された事業の勉強会が行われていたこともあってか、この日の審査では質問や意見は少なく、1時間ほどで説明、質問、採点などが終わりました。審査の結果、8件とも採択となりました。ただ、吉川区独自の決め方により市の支払